

■公共図書館での実践事例

「わいわい文庫」を、読みたい本と人が結びつくきっかけに

東京都新宿区立戸山図書館
谷口 絵莉子

新宿区立戸山図書館について

当館は、新宿区の中心に広がる緑豊かな戸山公園に隣接する集合住宅地の一角にあり、区立図書館の中で、障害者サービスの拠点館に位置づけられています。障害や高齢などで印刷された本をそのままでは利用しにくい人のために、録音図書“DAISY”の貸出や、利用者が希望された本の音訳のほか、来館が困難な方へ家庭配本（本の宅配）、読みやすいLLブックやマルチメディアDAISY図書の収集・貸出も行っていきます。伊藤忠記念財団の「わいわい文庫」マルチメディアDAISY図書は、当事者のほか、一般の方々にバリアフリー資料を周知するために活用しています。

目的

読書バリアフリー法施行から3年、活字による読書に困難がある方の情報リテラシーは改善されつつありますが、まだマルチメディアDAISY図書は一般には馴染みの薄いものです。この法律と障害に関する理解を深めるためには、

今後もさまざまなアプローチが必要と考えています。利活用している方、これからDAISYを利用する方のため、地域の図書館として継続して発信を行っていきます。

活用の様子

(1) カウンター前展示

期間：通年（障害者週間展示は12月）
内容：「わいわい文庫」ブルー版のデータが入ったタブレット端末、「わいわい文庫」をはじめ一般の利用者にも貸出可能なマルチメディアDAISY図書をカウンター前に展示。

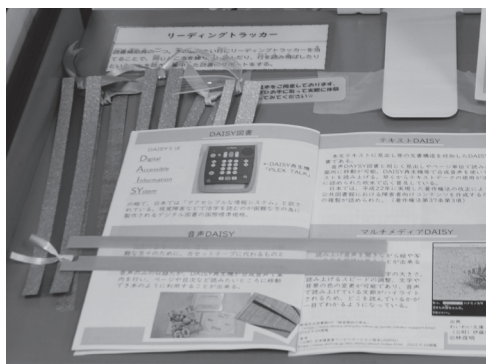


カウンター前展示

通常のマルチメディアDAISY図書の展示に加え、今年も障害者週間に関連するパネル「ともに生きる・ともに読む」を展示しています。タブレットで繰り返し再生することで、多くの利用者の目に止まります。今回は、リーディングトラッカーをその場で試すことができるようにしました。



障害者週間展示



リーディングトラッカー

(2) 戸山生涯学習館まつりに合わせた展示「こんな本もあるんだ展」開催

開催日時：2022年10月2日（日）

午後2時～4時

場所：戸山生涯学習館 図書館前スペース

今年10月にこれまでコロナ禍のため中止されてきた、地域住民が集まり賑わいをみせる戸山生涯学習館まつりが、1日と2日に開催されました。来館者の増加を見込んだこのタイミングに、図書館がある2階フロアの情報発信用スペースを使い、「こんな本もあるんだ展」としてイベント兼展示を実施。



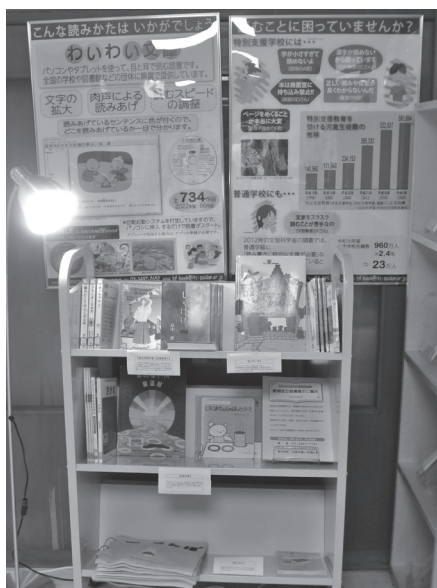
こんな本もあるんだ展

有限会社読書工房の協力を得ながら、凸面点字器「トツテンくん」を使った名刺作り体験を提供し、幅広い年齢の方にご参加いただきました。中でも小学2年生の男の子はすっかり気に入って、家族や友達から天国のおじいちゃんの方まで作り満足そうに持ち帰りました。



点字名刺作り体験

また、プロジェクターで「わいわい文庫」を大きく映し出し、開催中に流し続けました。あわせてバリアフリー資料に関するパスファインダーを製作・配布しました。立ち寄った方に楽しみながらバリアフリー資料と障害者サービスを知ってもらう機会をつくりました。



バリアフリー資料展示



わいわい文庫上映

(3) 新宿区立戸山図書館での「マルチメディアDAISYおはなし会」

2021年度に引き続き、2023年3月にマルチメディアDAISY図書を使ったおはなし会を開催します。子どもをおもな対象として、今年は15名ほど受け入れ、「わいわい文庫」のブルー版から2作品程度をプロジェクターで上映した後に、タブレット端末を利用して各自で体験する時間を設けます。他にも読み書き障害がある主人公の絵本の読み聞かせとリーディングトラッカー作りを実施します。また、一般対象では、北陸大学の河野俊寛先生を招いての講演会も実施し、読み書き障害への理解を進め、支援方法を学ぶことで、誰もが本にアクセスできる社会づくりを目指していきます。

(4) 当事者への貸出や利用案内について

当館所蔵のマルチメディアDAISY図

書は今年度、新しい方の利用があり、貸出数が微増しました。継続利用されているお子さんはすでに区内の所蔵分を読んでしまい、他の機関から借り受けて、年間50タイトルほど利用しています。

また最近、肢体不自由の子どもをもつ保護者から家庭配本に登録したものの、借りた本の読み聞かせに苦勞しているという相談があり、マルチメディアDAISY図書と録音図書について紹介しました。今後、「わいわい文庫」の使い方のご案内から始め、必要なフォローを継続して読書の推進につなげていきます。

効果と今後の課題

マルチメディアDAISY図書コーナーおよび障害者週間展示は、カウンター前にあることで多くの人の目に触れ、貸出数向上と周知につながりました。「こんな本があるんだ展」では、長年図書館を利用している方が「大活字本を初めて知りました。これなら若い頃読んだ本をもう一度読めそう」と喜ん

でいました。比較的目に付く場所に約2,000冊も揃えて並べているのですが、気づかずに通り過ぎてしまっていたようです。バリアフリー資料は棚に置くだけでなく、体験していただく機会を提供する大切さを学んだ展示でもありました。また、「わいわい文庫」の視聴コーナーも年配の方が立ち止まって、「今まで知らなかった」と関心を寄せていました。

最近では、当事者の子どもを持つ保護者や支援者、他区の障害者からの問い合わせも増え、マルチメディアDAISY図書への需要と期待の高さを感じています。初めて視聴する人には、絵本などやさしく読める作品が多く、自動起動システムが付加され扱いが簡単な「わいわい文庫」をお勧めしています。しかし、まだ「わいわい文庫」を必要としている子どもは大勢いるはずで、図書館でのイベント以外にも学校や社会福祉団体にも協力を呼びかけ、地域の読みに困難がある方々へ、読書の喜びを広げていくことを目指しています。

